

上下水道統合の報告

1 背景等

昨今、国における水行政の一元化、海外水ビジネスの推進、会計基準の見直し、東日本大震災の教訓を踏まえた上下水道一体となった危機管理体制の構築が求められるなど、上下水道事業を取り巻く環境が著しく変化している。

これらの変化に対応し、下記目的を達成するため、平成 24 年 4 月、水道局と建設局の下水道部門を統合し、上下水道局を新設した。

なお、上下水道局の新設に伴い、下水道事業に伴う地方公営企業法の適用については、財務規定のみを適用する「一部適用」から、企業管理者の設置など法の全てを適用する「全部適用」に改めた。

2 統合の目的と具体的取り組み

(1) 市民サービスの向上

〈主な取り組み〉

- ① 既に実施している使用開始・中止の受付や料金収納のみならず、問合せや苦情相談窓口の一元化

(2) ライフライン事業としての危機管理体制の向上

〈主な取り組み〉

- ① 上下水道の一体的な危機管理体制の構築（上下水道局危機管理体制強化推進プロジェクト会議で検討中）
- 〔・災害や事故発生時における上下水道の技術部門間の情報伝達の迅速化、相互応援体制の確立〕

(3) 効率的な事業運営

〈主な取り組み〉

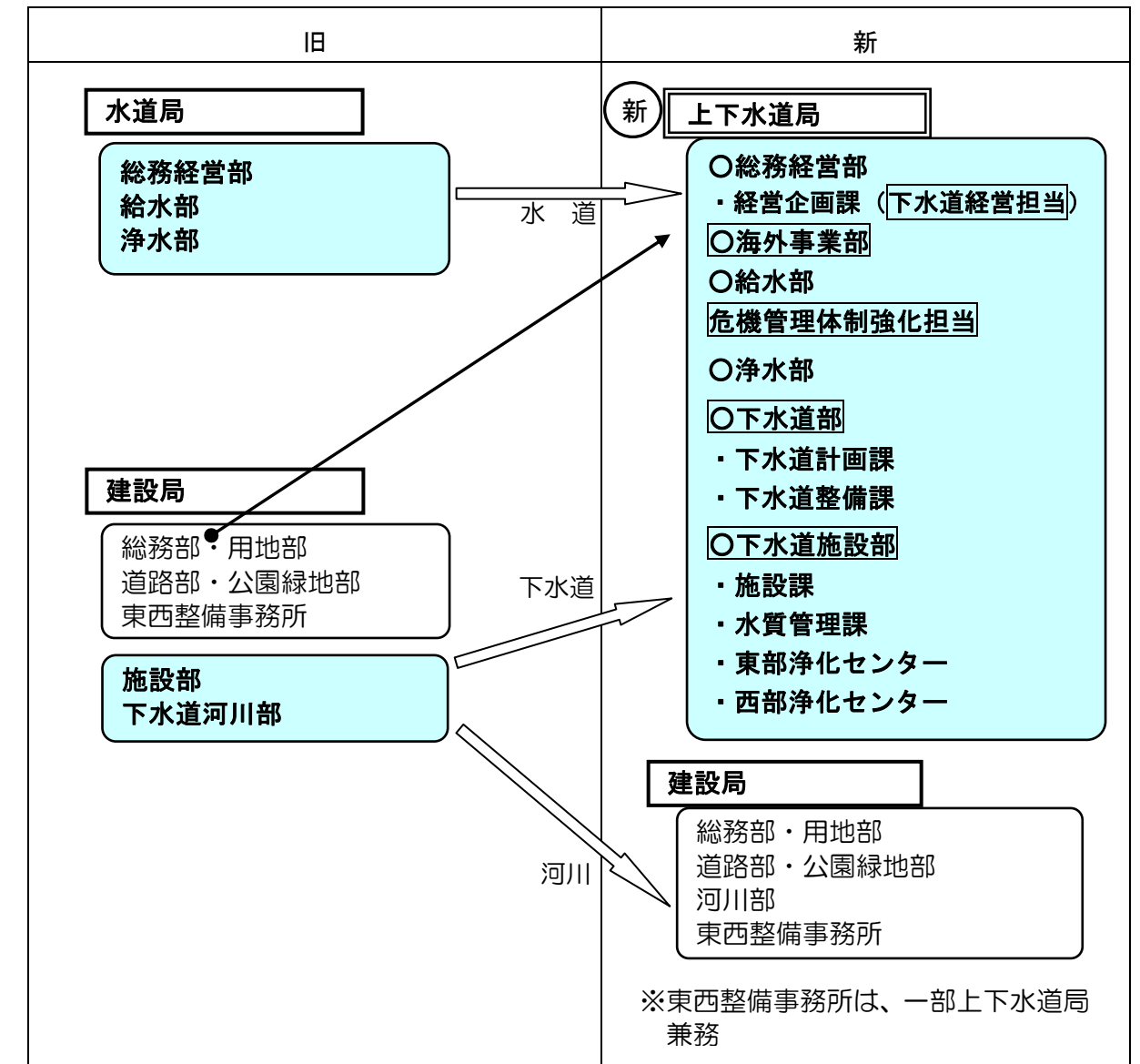
- ① 上下水道の一体的・効率的な事業計画の策定及び実施
- ② 庶務・経理等の管理部門、経営企画部門、技術部門の共有化による効率的で効果的な執行体制の確立
- ③ 配管工事の同時施工など、工事関係の効率化やコスト削減

(4) 海外事業の戦略的な推進

〈主な取り組み〉

- ① 上下水道の一体的な展開によるアジア地域における国際貢献、海外水ビジネスチャンスの拡大
- ② 北九州市海外水ビジネス推進協議会などの関係機関、諸外国との円滑な連携

3 組織体制



4 課題への対応

○局内にプロジェクトチーム（上下水道連携推進プロジェクト会議）を設置し、組織統合に伴う課題抽出や対応等について、検討を進めている。

○今年中に方向性を決め、条件が整い次第、実施していく。

1 平成23年度事業の進捗状況

(1) 対象事業

北九州市水道事業中期（後期）経営計画（平成23年度～平成27年度）で定めた16施策48事業

(2) 事業の実施状況

ア 目的達成状況

評価	評価内容	事業数	比率
a	大変良い状況にある	30事業	62.5%
b	概ね良い状況にある	14事業	29.1%
c	概ね良い状況とまでは言えない	1事業	2.1%
d	不十分な状況にある	1事業	2.1%
完了	事業目標を達成し完了する事業	2事業	4.2%
合計		48事業	100%

イ 今後の方向性

評価	評価内容	事業数	比率
A	計画どおり取り組む事業	36事業	75.0%
B	若干の改善や工夫が必要な事業	10事業	20.8%
C	大幅な見直しを含めた検討が必要な事業	0事業	0.0%
D	廃止・中止すべき事業	0事業	0.0%
完了	事業目標を達成し完了する事業	2事業	4.2%
合計		48事業	100%

(3) 事業評価

ア 目的達成状況において評価が「c」以下の事業

評価	事業名	評価理由	方向性	取組状況
c	アクアフレッシュ事業	<p>助成対象校数の減</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災を受け、教育委員会が学校の耐震化工事を重点的に取り組んだため、本事業として実施する校数が減少した。 <p><H23実績> 計画：20校 → 実績：9校</p> <p><これまでの取組（H20～H23）> 学校直結率（直結式給水の学校数/全学校数） 計画：58% 実績：53%（108校/202校）</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 本事業は、教育委員会が進める市立小中学校の直結化に要する費用を一部助成するものであり、教育委員会の実施状況により事業の進捗に影響を及ぼす。 平成24年度の教育委員会の予算は例年並みの予定であるため、上下水道局としては今年度も計画どおり行っていく。
d	カンボジア王国プノンペン水道事業におけるCO ₂ 削減	<p>資金供与機関の計画変更</p> <ul style="list-style-type: none"> 資金供与を予定していた機関の計画変更により資金を受けることが出来ず、事業の実施に至らなかったもの。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新たな資金供与機関（アジア開発銀行）と事業実施に向け協議中

イ 事業目標を達成し完了する事業

事業名	平成23年度取組状況
北九州水道100周年事業	北九州100周年記念事業の実施
水道記念展示（ウォーターハウス・水環境館）	ウォーターハウスでの記念展の開催 水環境館での記念館の開催

2 平成24年度事業の目標設定

平成23年度事業の進捗管理において今後の方向性が「B」であったものについて、改善又は強化する内容は以下のとおりである。

事業名	中期経営計画で掲げた目標	H24目標設定 (改善又は強化する内容)
●経年劣化の著しい施設の更新 (配水管更新事業)	・配水管更新 50km/年	<p>配水管の本管における漏水事故を踏まえた配水管更新計画の見直し（前倒し）の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 配水管更新 50km/年 配水管更新計画の見直し
●配水ブロックの改善	<ul style="list-style-type: none"> 配水ブロック編入に係る検討 ○配水管における水圧検討 配水ブロック編入に係る配水管整備 	<p>給水管への影響を考慮した詳細な検討の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 配水ブロック編入に係る検討 ○配水管における水圧検討 ○直結給水（マッジョ）の給水管に与える影響等の検討 配水ブロック編入に係る配水管整備
●応急給水能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 6号給水袋備蓄数：18,000枚 ポットウォーター備蓄数：10,000本 	<p>東日本大震災を受け備蓄数を見直し、応急給水能力の向上に努めるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 6号給水袋備蓄数：18,000枚 ポットウォーター備蓄数：<u>56,000本</u> (H25以降 66,000本)
●積極的な情報提供 ●水道施設の市民開放の促進 ●水道モニター事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ホームページや広報誌による情報提供 浄水場見学（市民開放、小学校社会見学等） 水道モニター事業（勉強会や施設見学等） 	<p>下水道部門との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 下水道部門と下水道部門の連携強化による更なる市民サービスの向上
●自然エネルギーの活用	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電の導入 浄水場への太陽光発電導入検討 	<p>新たな買取制度を踏まえた導入の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電の導入 浄水場への太陽光発電導入検討 マイクロ水力発電等の導入検討 (H25予定を前倒し)
●カンボジア王国プノンペン水道事業におけるCO ₂ 削減	<ul style="list-style-type: none"> 研修員受入 2人以上 職員派遣 2人以上 CO₂削減量（プノンペン市水道公社）7,000ト <p>[H23は資金供与を受けられず実施できなかった。]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修員受入 2人以上 職員派遣 2人以上 CO₂削減量（プノンペン市水道公社）7,000ト <p>・新たな資金供与機関による事業の実施</p>
●大連市水道公社との技術交流	<ul style="list-style-type: none"> 研修員受入 2人以上 職員派遣 2人以上 <p>[<現在の技術交流内容> ・事業：JICA草の根技術協力事業（H22～H24） ・内容：漏水削減、水質向上 ・対象：大連市の周辺3都市]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修員受入 2人以上 職員派遣 2人以上 <p>・H25以降の実施内容の検討 (事業、内容、対象区域等)</p>
●国際貢献を通じた技術の継承と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修員受入 80名 <p>[<過去の実績> H21 研修員受入 88名 H22 研修員受入 69名 H23 研修員受入 45名]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修員受入 80名 <p>・東日本大震災の影響やODA予算削減により海外研修員の受入が減少傾向 ・国の予算規模や相手国の要望等によることから情勢の変更に応じた目標値の見直しに関する検討</p>